

平成 23 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業報告書(東北地区)

地区名	東北地区（主担当大学：東北大学）
事業名	職員の企画・運営による職員のためのワークショップ（第 3 期） 利用者ニーズを引き出せ！～図書館アンケート・インタビュー徹底分析～
事業目的 ・趣旨	平成 21 年度から東北地区では、大学図書館職員のスキルアップ及び人的ネットワーク形成に寄与するため、ワークショップ形式の研修事業を実施している。本事業第 3 期となる平成 23 年度は、「利用者ニーズを引き出せ！～図書館アンケート・インタビュー徹底分析～」を主テーマとして開催した。 【ワークショップ】 多様に変化する利用者と図書館を取り巻く環境に対応して、より利用者ニーズに添ったサービスを提供するために、多くの大学図書館が利用者調査を行っている。しかしその調査の手法が正しいのか、疑問を感じている職員も多いのではないだろうか。 そこで、本研修では講演により利用調査の理論的基礎と、理論に基づいた調査の事例を学んだ後、全員参加型のアクティブラーニングを行うことにより、各館での実践に直結する成果をあげることを目標とした。 【Smiley Library プロジェクト】 また、ワークショップの開催を契機として、東日本大震災からの復興をアピールするプロジェクトを展開することとした。このプロジェクトでは、PR 活動により東北地区の復興をアピールと同時に、大学図書館職員の交流を継続的に推進するものである。 【スタッフ育成】 研修スタッフは地区協会会員間からの公募とし、計画から実施及び評価に至るまでの一連の作業を自主的・自律的に行った。これにより、大学図書館職員の企画力の向上を図るとともに、かつ地区内の連携を高めることを目的とした。
実施内容	【ワークショップ】 参加者：東北地区大学図書館職員等（45 名） 日時：平成 24 年 1 月 30 日(月) 11:30～17:00 会場：東北大学附属図書館本館 プログラム： 11:30 ランチミーティング 13:00 講演 ①「利用調査の基本」東北大学文学研究科 木村邦博教授 ②「図書館における利用者調査の事例」慶應高校図書室 上岡真紀子氏 16:00 フォローアップセッション 【Smiley Library プロジェクト】

	参加者各館から集めた図書館職員のスナップ、震災からの復興状況写真など 500 点を利用したポスターを作成し、東北地区大学図書館協議会加盟館および国立大学図書館協会会員館等へ送付した。 【スタッフ育成】 東北地区 7 大学の 9 名がスタッフとして参加した。講演会の前後に 3 回のミーティングを行ったほか、メーリングリスト・Twitter を利用して、ワークショップおよび Smiley Library プロジェクト実施ために活発に議論した。
事業の成果 (アンケート調査結果、事業への意見・感想等)	【ワークショップ】 参加者のアンケートでは、「基礎や心構えが確認できて良かった」「実際の調査や現場の様子を知る事ができて大変興味深かった」などのコメントが多数あり、全体的に高い満足度を示していた。 【Smiley Library プロジェクト】 ポスターを送付した各館からは、「たくさんの笑顔で元気をもらえる」などの声が寄せられた。 活動全体を通して、共有とつながりを意識し、wiki や Twitter という新しいツールを多用した。参加者の事前質問や講演後の感想を wiki に掲載することで、他者の気づきや感想も共有し、より個々人の理解を深めることができたと考えている。新しいツールに対する参加者の戸惑いも見られたが、情報発信ツールとしての有用性を再確認できた。 なお、Smiley Library プロジェクトは、国立国会図書館運営のカレントアウェアネスでも紹介され、東北地区以外からも強い関心を集めた。 【スタッフ育成】 スタッフとして参加し、企画を一から立ち上げることは、貴重な経験となったという感想を、スタッフ全員が共有することとなった。Smiley Library wiki は現在も継続運営中で、今後もスタッフや地区の大学図書館職員の交流の場として活用したい。
経費	講師謝金・交通費： 84,420 円 会議費： 10,030 円 資料等印刷費： 37,590 円 資料発送費： 22,960 円 合 計： 155,000 円